

長野経済研究所プレスリリース ～消費動向調査結果(2021年7月調査)～

新型コロナへの強い不安感が和らぎ、消費の抑制姿勢弱まる

本調査は、県内の消費動向や消費者意識を把握するため、県内1,000世帯を対象に、3カ月ごとに実施している。

👉 調査結果のポイント

<新型コロナウイルスについて>

新型コロナへの強い不安感は弱まる

- ・ 新型コロナウイルス（以下、新型コロナという）に対する不安感（「とても不安に感じている」＋「やや不安に感じている」）は、88.8%と引き続き約9割が不安を感じている。ただ、「とても不安に感じている」は35.1%と、2020年4月の調査以降で最も低い回答割合となった。
- ・ 新型コロナに関連して不安に感じることは、「いつまで感染が続くのか分からない」が66.3%と最も多く、次いで「どこで感染するか分からない」が57.7%と、引き続き上位にある。ただ、これらの回答割合は時間の経過とともに減少している。

抑制的な消費行動が初めて半数を下回る

- ・ 新型コロナ感染拡大前と比べた消費行動は、「抑制的」（「抑制的になった」＋「やや抑制的になった」）の回答割合が46.6%と、これまでの調査の中で初めて半数を下回った。
- ・ 消費行動を抑制する理由は、「感染が怖いから」が60.1%と最も多いが、21年4月調査（以下、前回調査という）に比べ9.3ポイント減少している。

進むワクチン接種

- ・ 新型コロナワクチンの接種意向は、「既に接種した」が27.3%と最も多くなり、前回調査の0.9%に比べ26.4ポイント増加した。
- ・ 国内でワクチン接種が進んだ場合の消費行動は、「変わらない」が6割と最も多くなっているが、「積極的」（「積極的になる」＋「やや積極的になる」）の回答割合は34.0%となり、前回調査（31.3%）に比べやや増加した。

<自動車の保有状況と購入意向について>

次回の購入予定でもガソリン車が最多

- ・ 現在保有している自動車は、ガソリン車が82.6%と最も多く、ハイブリッド自動車（HV）や電気自動車（EV）などの回答割合を大きく上回った。
- ・ 次回購入予定の自動車は、ガソリン車が34.4%と最も多く、次いでHVが31.0%となった。

EVを購入してもよい価格帯は250万円未満が6割

- ・ EVを購入しても良いと思う価格帯については、「150万～200万円未満」が25.3%と最も多く、次いで「200万～250万円未満」（18.8%）、「150万円未満」（17.6%）などとなった。

- 今回のアンケート調査では、ワクチン接種の進展もあり、消費者の不安が和らぎ、抑制的な消費行動も弱まる結果となった。ただ一方で、感染力の強い変異株の広がりもあり、国内感染者数が増加傾向にある中、不安感が再び高まることで、消費の抑制色が強まる懸念される。

<お問い合わせ先>

一般財団法人 長野経済研究所 電話：026-224-0501
 担当：調査部 主任研究員 寺嶋 孝太郎
 研究員 佐藤 翔胤

【調査の概要】

「消費動向調査」アンケート実施概要

調査時期： 2021年7月上旬～中旬

調査対象： 長野県内在住の1,000世帯

回答属性： 単独世帯 240世帯
二人以上世帯 760世帯

性別 男性 50.0% 女性 50.0%
年齢別

20代	8.5%
30代	13.1%
40代	19.1%
50代	24.3%
60代	21.3%
70代以上	13.7%

調査方法： インターネット調査

※ 四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合がある。

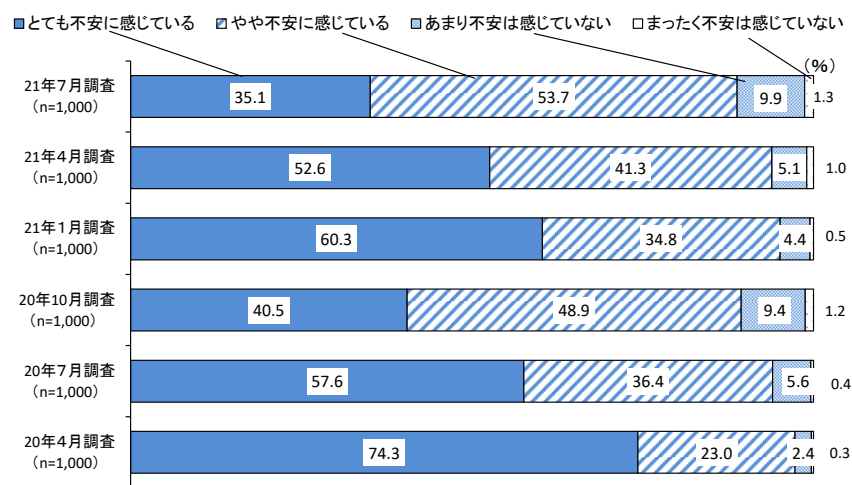
詳細は経済月報9月号をご覧ください。

<新型コロナウイルスについて>

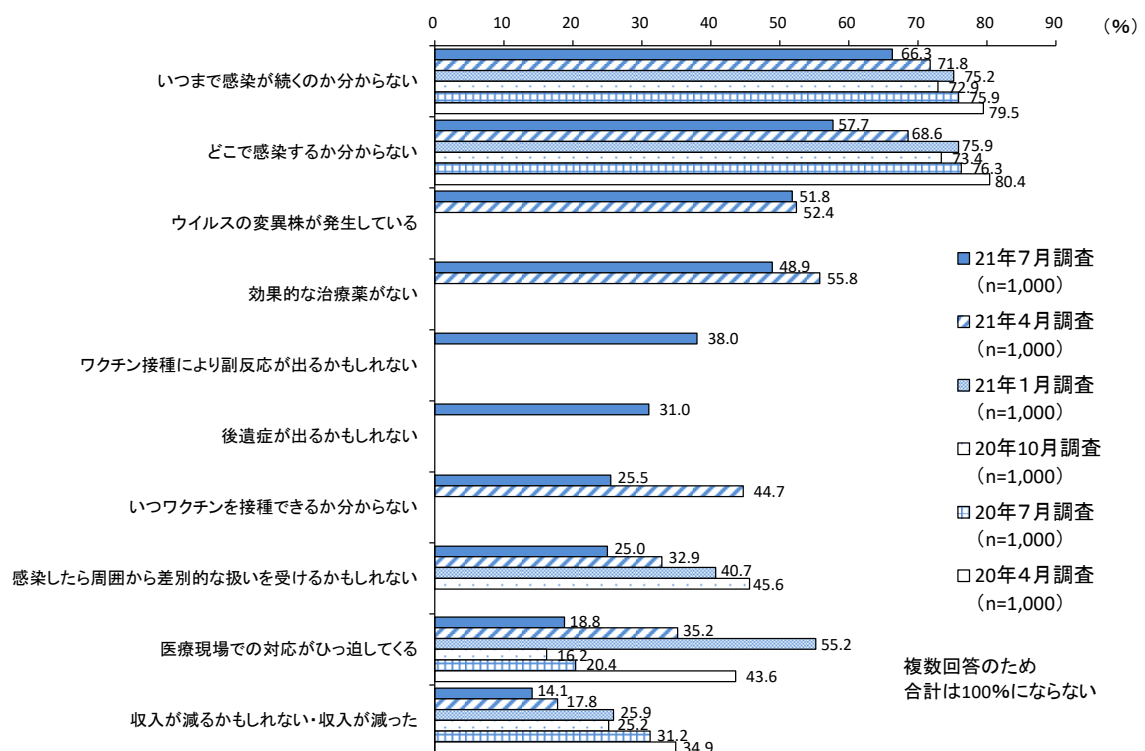
◆ 新型コロナへの強い不安感は弱まる

- ・ 新型コロナに対する不安感（「とても不安に感じている」＋「やや不安に感じている」）は、**図表1**のように、88.8%と引き続き約9割が不安を感じている。ただ、「とても不安に感じている」は35.1%と、2020年4月の調査以降最も低い回答割合となった。
- ・ 新型コロナに関連して不安に感じることで、**図表2**のように、「いつまで感染が続くのか分からない」が66.3%と最も多く、次いで「どこで感染するか分からない」が57.7%と、引き続き上位にある。ただ、これらの回答割合は時間の経過とともに減少している。一方、これらに次ぐ「ウイルスの変異株が発生している」は51.8%と、その回答割合は横ばいだった。

図表1 新型コロナに対する意識



図表2 新型コロナに不安を感じている理由

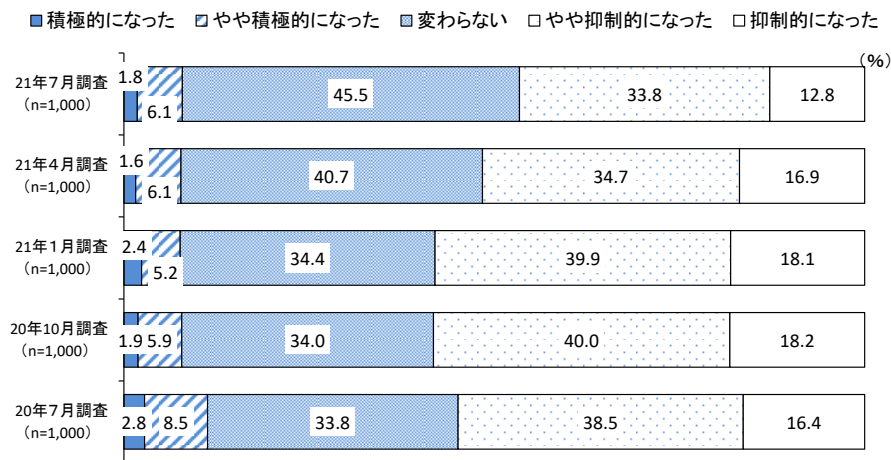


(注) 回答割合の多い上位10項目を掲載

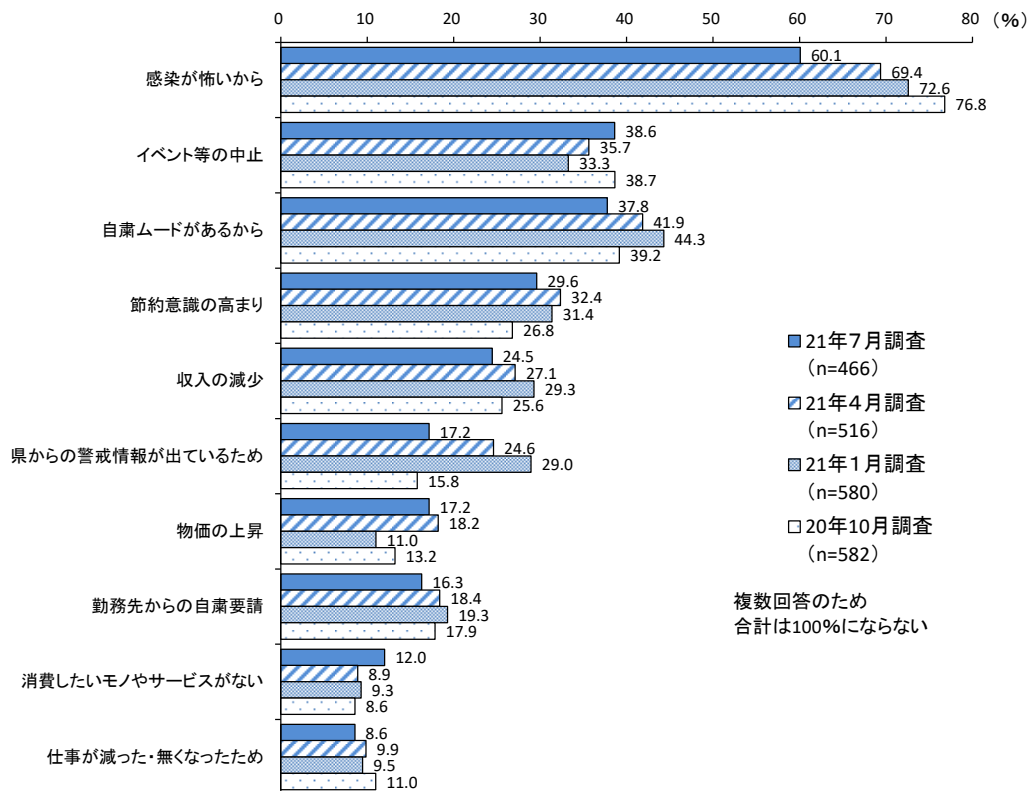
◆ 抑制的な消費行動が初めて半数を下回る

- ・ 新型コロナ感染拡大前と比べた消費行動は、**図表3**のように、「抑制的」（「抑制的になった」＋「やや抑制的になった」）の回答割合が46.6%と、これまでの調査の中で初めて半数を下回った。
- ・ 消費行動を抑制する理由は、**図表4**のように「感染が怖いから」が60.1%と最も多く、次いで「イベント等の中止」（38.6%）、「自粛ムードがあるから」（37.8%）などとなった。「感染が怖いから」の回答割合は、前回調査に比べ9.3ポイント減少しているが、この背景にはワクチン接種の進展があるとみられる。

図表3 新型コロナ感染拡大前と比べた消費行動



図表4 消費行動を抑制する理由

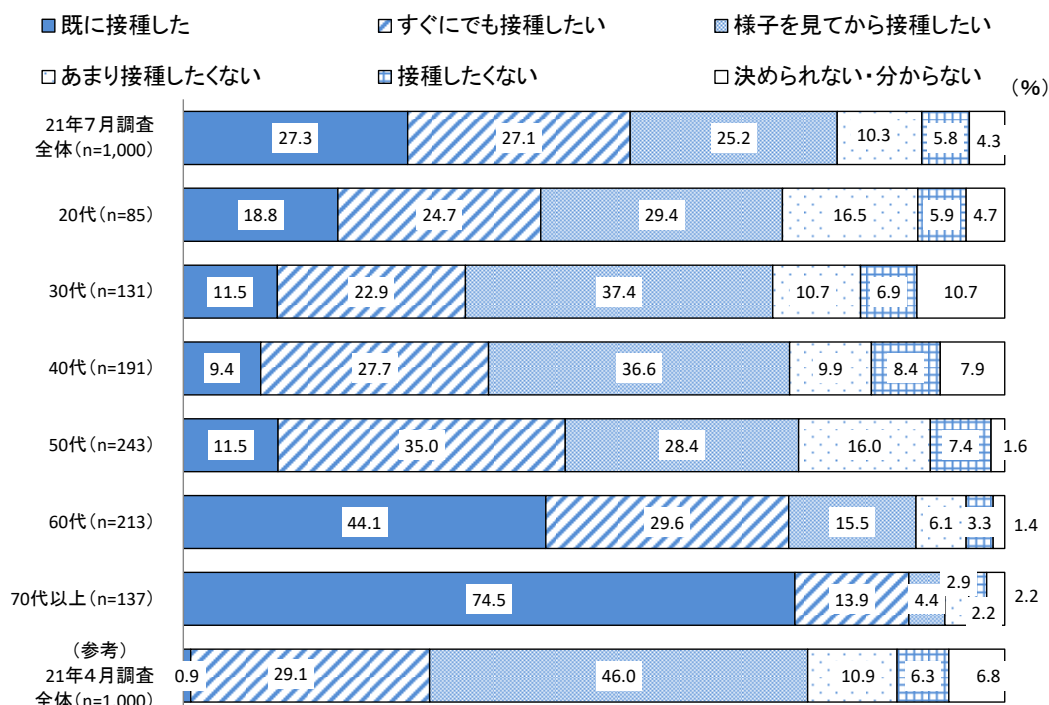


(注) 回答割合の多い上位10項目を掲載

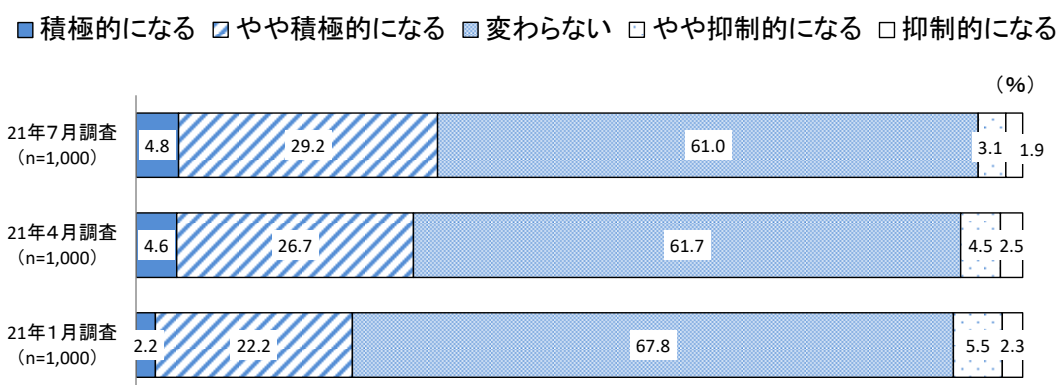
◆ 進むワクチン接種

- ・ 新型コロナワクチンの接種意向は、**図表5**のように「既に接種した」が27.3%と最も回答割合が多くなり、前回調査（0.9%）に比べ26.4ポイント増加した。次いで、「すぐにでも接種したい」が27.1%、「様子を見てから接種したい」が25.2%などとなった。
- ・ 年代別にみると、「既に接種した」の回答割合は、70代以上が74.5%と最も多く、次いで60代が44.1%と、高齢層で多くなった。
- ・ 今後、国内でワクチン接種が進んだ場合の消費行動は、**図表6**のように、「変わらない」が6割と最も多くなっているが、「積極的」（「積極的になる」＋「やや積極的になる」）の回答割合は34.0%となり、前回調査（31.3%）に比べやや増加した。

図表5 新型コロナワクチン接種の意向



図表6 国内でワクチン接種が進んだ場合の消費行動

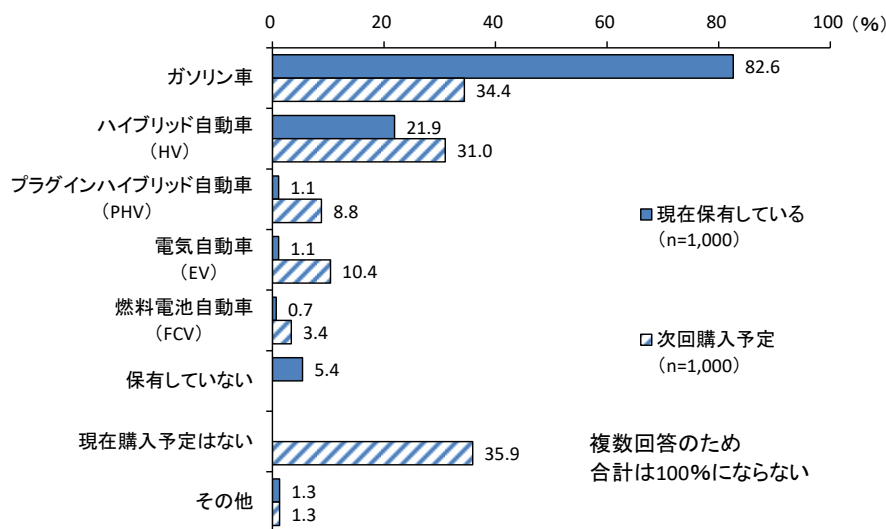


<自動車の保有状況と購入意向について>

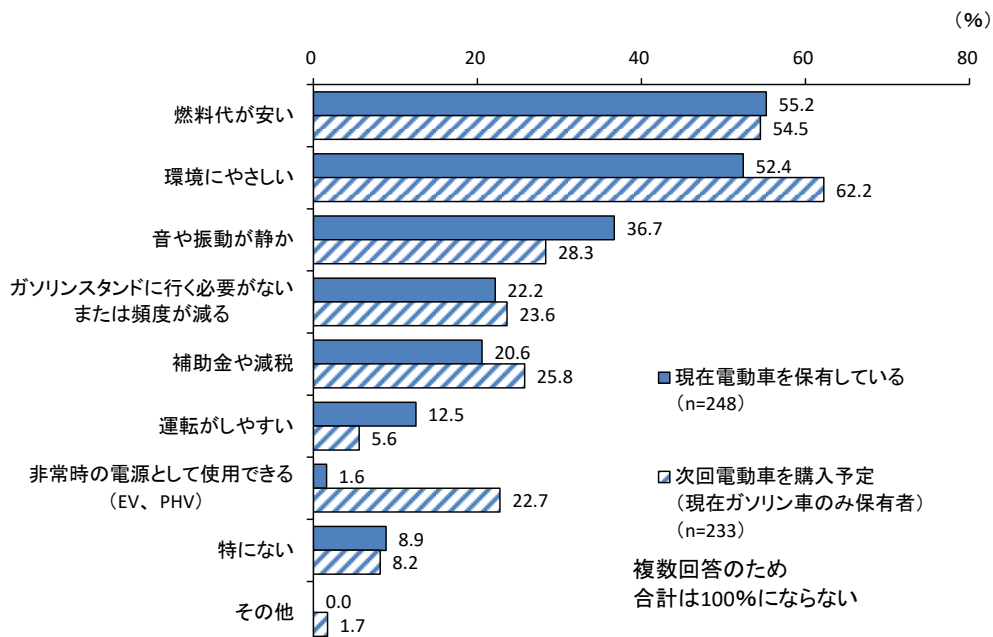
◆ 次回購入予定でもガソリン車が最多

- ・ 現在保有している自動車は、**図表7**のように、ガソリン車が82.6%と最も多く、ハイブリッド自動車（HV）や電気自動車（EV）などの回答割合を大きく上回った。
- ・ 次回購入予定の自動車は、ガソリン車が34.4%と最も多く、次いでHVが31.0%となった。
- ・ 電動車の購入理由について尋ねると、**図表8**のように、現在電動車を保有している層では、「燃料代が安い」が55.2%と最も多く、次いで「環境にやさしい」が52.4%、「音や振動が静か」が36.7%などとなった。
- ・ 一方で、次回電動車を購入予定の層では、「環境にやさしい」が62.2%と最も多く、次いで「燃料代が安い」が54.5%、「音や振動が静か」が28.3%などとなった。

図表7 自動車の保有状況と、次回の購入意向



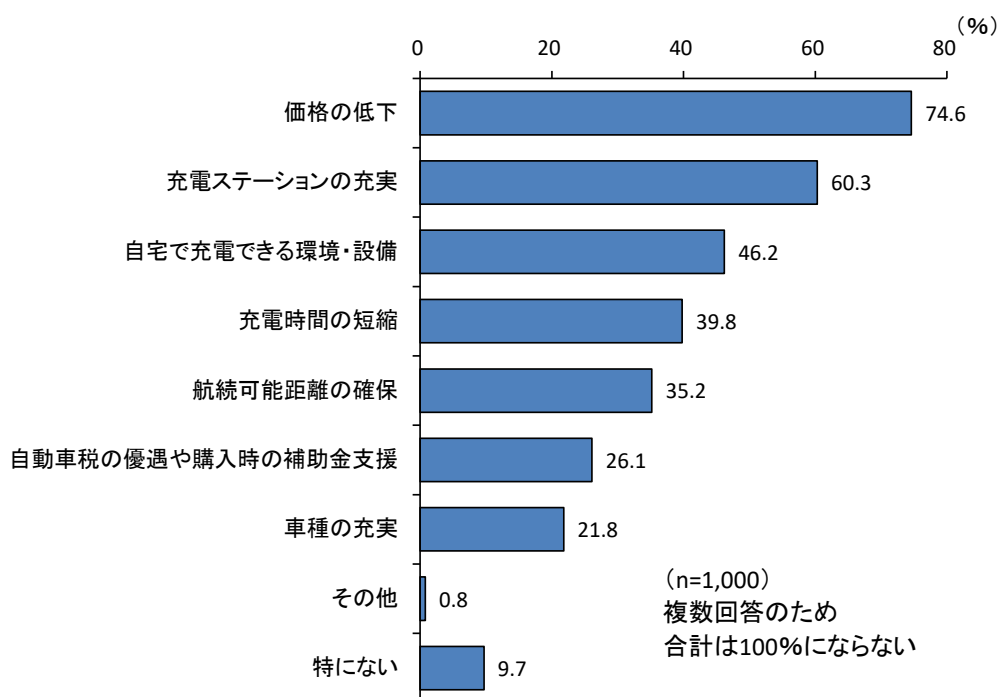
図表8 電動車を購入する理由



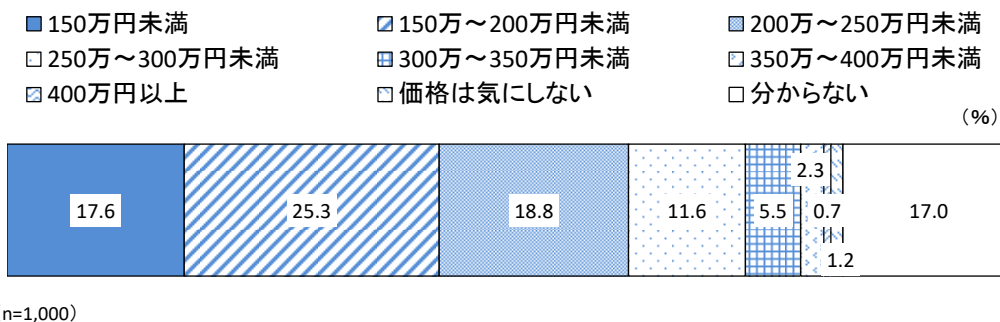
◆ EV を購入してもよい価格帯は 250 万円未満が 6 割

- ・ 脱炭素化に向け自動車の電動化に向けた取り組みが進められている中、今後 EV が普及するために必要なことを尋ねたところ、**図表 9**のように、「価格の低下」が 74.6%と最も多く、次いで「充電ステーションの充実」(60.3%)、「自宅で充電できる環境・設備」(46.2%) などとなった。
- ・ EV を購入してもよいと思う価格帯については、**図表 10**のように、「150 万～200 万円未満」が 25.3%と最も多く、次いで「200 万～250 万円未満」(18.8%)、「150 万円未満」(17.6%) などとなり、6 割が 250 万円未満を希望している。

図表 9 EV 普及のために必要なこと



図表 10 EV を購入してもよいと思う価格帯



以上